



認知症カフェで3年間も皆勤ボランティア

仲田 榮子さん

平成27年5月、亀戸4丁目に「ふくろうカフェ」がオープンして以来、一度も休まずボランティアとして来ているのが、今回ご紹介する仲田榮子さん。ここに通うようになったキッカケは、ナント！



「自分が患ったリユーマチだったとか・・・」。動きもかなりラクになったようです。ただ、今でも週2回デイサービスに通っていますが、あくまでデイサービスはボランティアではありません。ということ。 **認知症の人とも友達に**

認知症の人の気持ちが少ないでも理解できればと、このカフェに来てすぐに江東区の認知症サポーター養成講座を受け、オレンジリングを取得。

カフェに通っているうちに、いろいろな人と話したり、一緒に歌を大声で唄ったりして、認知症の人とも友達のようになりました。

「自分でも他人の役に立つことができる。困った人がいれば、面倒を見られる人が面倒を見れば」と笑顔で語る仲田さん。今ではこの「ふくろうカフェ」にいないではない存在になっています。

ここは楽しい「老稚園」

「ここは幼稚園ならぬ老稚園です」と言う仲田さん。まず自分が楽しむことを考え、来場者に一緒に楽しい時間を過ごしているそうです。

「自分が心身ともに元気になったのは、認知症の方を含めた来場者のみなさんやスタッフのおかげ。」ここで学んだことも多いようで、最後に「自分以外みな先生です」と仰っていました。

自らもデイサービス通い

5年前にご主人を亡くされた後、ご自分のリユーマチが悪化。要支援の認定を受け、歩くのもつらい日々を送っていたようです。そんな時、江東病院の「リユーマチの講習会」に参加。ここでケアマネージャーの大坪さんと知り合いになり、相談したところ、「認知症カフェでボランティアやってみませんか？」と言われたそうです。「まさか自分がボランティア？」と思ったそうですが、半信半疑ながらも始めてみて自分がびっくり。おかげでみるみる元気度アップ。体の

シリーズ ニッポン認知症カフェ探訪記

僕の全国を巡る旅は、このカフェとの出会い無くしては始まらなかっただろう。

認知症カフェに関心を持ち、しかし費用の都合から、手近な取組みを中心に取材する計画を立てていた頃、ネットで「アズ・ア・カフェ」の存在を知った。それは熊本のNPO法人が、ホールやギャラリーまで備えた専用施設をまるごと建ててしまったという、驚くべきスケールの認知症カフェである。

「豊かな高齢社会を熊本からつくっていく」という志の高さと、なにより建築としての美しさに胸が高鳴った。

このカフェには必ず行く、と心に誓ったとき、取材範囲を九州、そして全国に広げる覚悟も決めたのである。

「アズ・ア・カフェ」を持つNPO法人・あやの里では、毎年4月の日曜に「あや祭り」というイベントを行なっている。地域の人も大勢参加するので、僕のような風来坊の訪問にはうってつけの日と思われた。

2016年の「あや祭り」に行く



とした矢先、熊本県と大分県を大きな地震が襲った。あやの里がある熊本市山ノ内は震度6強、すぐとなりの益城町では最大震度7を観測した。幸いなことに、あやの里では外壁の一部が崩れた程度で、入居者にも建物にも大きな被害はなかったという。しかし周辺の地域では、余震のため自宅にいらなくなる人々が相次いだ。特に行き場をなくしたのは、在宅で暮らしていた認知症当事者の人々だった。

すぐに、あやの里副代表の岡元ナオさんは、SNSなどを通じて「アズ・ア・カフェ」を臨時の避難所として開放するとアナウンスを行う。元々、丘の上にある「アズ・ア・カフェ」は、台風の際に避難場所になることも想定しており、そのような対応ができたのだという。

こうして認知症の人々も含む総勢50名ほどを受け入れた「アズ・ア・カフェ」は、余震が収まる5月下旬まで臨時避難所としての役割を果たした。その過程では、行政も特別な事情を理解し、支援物資が直接運ばれるなど配慮が行われたという。

翌年の「あや祭り」に、僕は初めて「アズ・ア・カフェ」を訪れた。鯉のぼりが泳ぐ青空の眩しい、のどかな春の日だった。

岡元ナオさんに震災後の一年について尋ねると、避難所となったことで、「アズ・ア・カフェ」は地域の人々から大切に思われる場所になったと語る。避難経験者のなかには、その後も庭の清掃など、ボランティアに来てく



絆の象徴
熊本市「asa cafe アズ・ア・カフェ」

れるようになった人たちもいるという。

震災からの復旧・復興に関する課題はまだ終わらない。しかしその体験は地域の絆を深めた。認知症カフェ「アズ・ア・カフェ」はその象徴となったのである。

コスガ聡一さん
フォトジャーナリスト
全国30か所以上の認知症カフェを巡り、ブログや雑誌などでその様子を紹介している。ブログ「全国認知症カフェガイド on the WEB」案内人。

おすすめBOOK紹介

死ぬまで好奇心!

「どんな人生がいちばんイヤか？」
そう問われたら、私はいつもこう答えてきた。
「退屈な人生」・・・
こんな出だして始まり、何歳になっても好奇心を持って説く。

- 第1章 好奇心のある人、ない人の違い
- 第2章 好奇心を育てるきっかけは行動力
- 第3章 好奇心を枯らす生き方は損だ
- 第4章 好奇心がないと「退屈」だけが残る



著者 川北 義則
発行 海竜社 1,300円(税別)